

「腹部 MRI の読み方」

東京女子医科大学助教授 河 野 敦 編集

東京女子医科大学助教授 河 野 敦
東京女子医科大学放射線科 扇 和 之 執筆
現済生会栗橋病院放射線科医長 高 橋 恵理子
東京女子医科大学放射線科 原 裕 子

奈良県立医科大学教授

打 田 日出夫

近年，MRI の進歩と普及は目覚ましく，腹部領域においても，MRI は不可欠な診断法となりつつあり，腹部 MRI の専門書の発刊が待ち望まれていた．本書は世のニーズに応えたものであり，上梓を達成された河野敦氏に，心からお喜びと敬意を表したい．

腹部には多くの臓器と疾患が存在し，これらを見逃すことなく正確に診断を進めていくには，横断像に加えて冠状断と矢状断像により腹部全域を同時に描出できる MRI は，今後ますます威力を発揮するであろう．一方，腹部 MRI の診断に当た

っては，CT よりも更に一定以上のレベルですべての臓器と腔を診断できる能力が要求される．

本書は第 I 章では MRI の撮り方と注意の要点を述べ，第 II-X 章にわたっては腹部各臓器と腔の MRI 診断を，正常解剖，検査手技と読影法について簡潔にわかりやすく解説しており，腹部全域の MRI の読み方を習得するのに適切な量と内容である．正常解剖の項では，単に画像解剖の解説だけでなく，各臓器の信号強度と周囲組織や隣接臓器との相対的信号強度を重視して述べられており，これから MRI 読影に取り組

む初心者にも理解しやすい．検査手技の項では，各臓器で最も診断に適する手技と撮像法が記載されている．読影法の項では，頻度の高い疾患を中心に自験例を呈示しながら，多くの文献的考察を踏まえて解説されており，腹部 MRI 読影の基本に加えて，現時点での進歩の最先端を理解することができる．また，適宜に CT などとも比較して，総合画像診断の立場からみた MRI の診断的位置づけについても的確に触れてある．

MRI 装置の種類や磁場強度と無関係に，各臓器と疾患における MRI の読み方の基本は共通している．高磁場 MRI が大学病院を中心に普及しているが，第一線の施設における主流は低・中磁場装置であり，本書はこれらの点からも有用性は高く，熟読により腹部 MRI 診断の基礎を学んでおくことは，すべての MRI 装置の診断に役立つことと確信する．

今後，更に多くの経験と進歩を取り入れることにより，息永い名著として愛読されることを願い推薦の言葉とする．

B5 判 218 頁 図 5 写真 370
1990 定価 8,240 円(税込) 千 300

医学書院 刊